

講義名	経営管理論			
科目区分	学部専門基礎			
担当教員	碓井 将夫			
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 1時限			
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科			
履修開始年次	2年生	単位数	2	講義コード 51029

主題と概要
われわれの社会は、戦後、農業を中心とした社会から工業を中心とした社会に転換し、それにともない多くの労働人口が農業から工業やサービス業に移行した。工業は、組織的に財を生産する産業である。また、サービス業は同様に流通・販売する産業である。短い間に組織社会になった。多くの人々が組織に属し働くことになった。現代、これから社会で働く人たちのほとんどが高学歴の若者である。知識を通じて生活の糧を稼ぎ、成果をあげて社会に貢献する機会が豊富に存在するのは組織だけである。 本講義では、マネジメントによってなされるべきことをを中心に置く。 マネジメントとは組織の機関である。組織がなければマネジメントはありえない。その組織は社会のための機関である。組織は、社会、経済、個人が必要とするものを提供することを目的とする。機関とは何を行うかによって定義されるものではない。何を貢献するかによって定義される。また、マネジメントとは、一つの体系である。一つの知識体系である。しかし、まだわかっていないこともある。新しい領域と新しい課題も現れている。本講義では、それらの領域を明らかにする。同時に、それらの領域へのアプローチの仕方も明らかにし、新しい課題と挑戦に応えるための政策、原則、方法を明らかにする。組織は、人からなる。あらゆるマネジメント上の成果は人としてのマネジメントによるものである。人としてのマネジメントのビジョン、献身、真摯さが、マネジメントの成否を決める。つまるところ、マネジメントとは実践である。その本質は知ることではなく、行うことにある。その評価は、理論ではなく成果によって定まる。主役は成果である。したがって、本講義は基本を扱っているものの哲学の講義ではない。 。実践から生まれた実践の講義である。 本講義が、君たちが社会に出て組織に属し、あるとき、その組織の方向性や組織運営に疑問を持った場合、仕事の成果や将来のキャリアに不安を抱いた場合、そして自分の人生に悩んだ場合、現状を整理し、問題解決の糸口を見つけることができる。

到達目標
マネジメントの目的、役割、課題、責任、実践、正統性について理解し、述べるができる。また、実社会で活用するための方法論を身につけることができる。

提出課題
授業毎に、小演習問題（グループ別・個別）に答えてもらいます。

評価の基準
出席と授業毎の小演習の結果、授業態度、期末試験を総合し評価します。 配分率：出席および授業態度 4 0 %、小演習・グループワーク 2 0 %、期末試験 4 0 %

履修にあたっての注意・助言他
講義専用のノートを一冊作ること。 ノートに講義前に、テーマとなる業界やインターネットを通じよく調べておくこと。 ノートに講義中、レポートとは別に要点やあらすじのメモをとり、講義内容を自身でよく確認すること。

教科書
. エッセンシャル版マネジメント. PFドラッカー ダイヤモンド社 2,000円 4-478-41023-
. プロフェッショナルの原点. PFドラッカー ダイヤモンド社 1,600円 978-4-478-
. 寄り添う力. 石井淳蔵 碩学舎 1,800円 978-4-502-

プリント資料及び参考文献
「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」 岩崎夏海著 ダイヤモンド社刊 「プロフェッショナルの条件」PFドラッカー 著

授業計画
1. 組織の目的、その役割と働く人たちの自己実現 2. " 3. " 4. 成果をあげるための具体的な方法 5. " 6. " 7. チームとして成果をあげるための要点と具体的な方法 8. " 9. " 10. 顧客の創造、マーケティング、イノベーション 11. " 12. " 13. 品質経営論 14. " 15. 講義全体のまとめ

予習・復習
講義毎に、講義用資料を配布しますので、復習の際にマーカーや下線の指示のあったところを再度読み返すようにして下さい。

備考
講義後に興味をひいた言葉を書籍やインターネットで調べ、講義内容を思い返すようにして下さい。なお、毎回のグループ演習や小テストを通じて、講義の理解度の確認と気づき、不明な点を明確にし、次の講義の際に説明を加えていきます。